

Mitsubishi Corporation "Midterm Corporate Strategy 2018"

# 株主 通信

2016年6月 No.42  
2015年度報告  
(2015年4月～2016年3月)

新体制スタート、『中期経営戦略2018』策定



## CONTENTS

Top Message	
株主の皆様へ	3
2015年度決算および 2016年度業績見通しのご説明	8
Special Feature	
中期経営戦略2018 ～新たな事業経営モデルへの挑戦～	12
ビジネスハイライト	18
環境・CSRへの取り組み	22
会社情報	26





株主の皆様へ  
覚悟を持って、  
経営に臨んで  
まいります。

CONTENTS

株主の皆様へ

決算の说明

Special Feature

ビジネスハイライト

環境・CSR

会社情報

## 入社以来、非資源分野の発展に力を注ぐ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととおよろこび申し上げます。

4月1日をもちまして、社長に就任しました垣内です。私は、1979年に入社して以来、生活産業グループCEOになるまで主に飼料畜産事業等の非資源分野の事業に携わってきました。1988年から約5年間オーストラリアに駐在した際には、現地の配合飼料メーカー リベリナ社の取締役を務める中で経営のノウハウを学び、1993年には米国の豚肉処理・加工・販売会社であるインディアナ・パッカーズ社の事業再構築を手がけました。その後、生活産業グループCEOオフィス室長、農水産本部長を経て生活産業グループCEOとなり、小林前社長の下、三菱商事の非資源分野の発展に力を注いできました。



## 社員一人ひとりの志、夢、情熱を結集し、 永続的成長を目指す

私が事業再構築を手がけたインディアナ・パッカーズ社は、当時業績が伸びず厳しい状況にありました。一緒に取り組んだメンバーの危機感と情熱でそうした状況を打開し、会社を再生させた経験から、事業の勝敗を決めるのは、社員一人ひとりの志や夢、情熱、そこから発するエネルギーの大きさだと感じ、その心を大切にしてきました。ビジネスを行ってれば、必ず逆境や難しい局面を迎えます。しばらくの間苦しくても、諦めることなく強い思いを持って取り組み、5年、10年と情熱を継続させられるかどうか、それが事業を成功に導く最大のポイントだと考えています。また、社会的意義を意識した事業を行い、社会との共生を図ることが企業の永続的成長につながると確信しています。

経営の難易度が高まり、非常に困難な状況で社長を拝命したと強く自覚しておりますが、覚悟を持って経営に臨みたいと決意を新たにしております。

## 三菱商事の強みである 「変化への対応力」を発揮する

社長就任後、現在の経営環境・事業環境を改めて見つめ直し、目指すべき企業像と、向こう3カ年の経営方針をまとめた『中期経営戦略2018～新たな事業経営モデルへの挑戦～』を策定しました（詳細はP12～17をご参照ください）。

三菱商事は、創立以来60年を超える歴史の中で、世の中の変化に対応すべく、これまでも会社のかたちを進化させてきました。そして現在、非常に複雑な社会・経済情勢に加え、第4次産業革命ともいうべきAIやIoTなどの技術革新の中にあって、再び変化に対する適切な対応が求められています。

創意工夫により新たなビジネスモデルを構築し、自らの意思で社会に役立つ事業価値を追求していきます。また、変化への対応力で会社の発展を求めるとともに、経営能力の高い人材が育つ環境・文化を持った会社でなければなりません。

幾多の事業を通して、高い倫理観・変化への想定力・困難を乗り越える実行力を持つ人材を育て、そうした人材がさらなるビジネスイノベーションを起こすことで会社を発展させる。まさに人の成長と会社の発展が一体となって、進化していける会社を目指していきます。

### Personal Data

**垣内 威彦** (かきうち たけひこ) 1955年7月31日生まれ

座右の銘	『人事を尽くして天命を待つ』、『至誠天に通ず』
趣味	ゴルフ「一緒に回った人が自信を持つレベル」
大切にしていること	60歳の誕生日に、思いがけず仕事仲間から自分の過去をたどるビデオメッセージをいただき、出会った人たちへの感謝と絆を改めて大切にしようと思った。

### ●主な経歴

1979年4月	三菱商事入社(飼料畜産部)
	オーストラリア三菱商事、食糧本部 ホワイトミートユニット マネージャー、生活産業グループCEOオフィス室長、 農水産本部長等を経て
2010年4月	執行役員就任
2011年4月	生活産業グループCEOオフィス室長(兼)農水産本部長
2013年4月	常務執行役員 生活産業グループCEO
2016年4月	社長

そのためにも、事業に「投資」するだけでなく、事業の発展に寄与できるのであれば、事業の中に入り当該会社の強さを活かして成長させる「事業経営」に積極的に挑戦していきます。

また経営基盤強化のために、「資源」と「非資源」のポートフォリオバランスの是正や、キャッシュ・フローを重視した経営にも併せて取り組んでいきます。

私は企業が永続的に成長するためには、コンプライアンスはもちろんのこと、社会との共生が不可欠であると確信しています。三菱商事は『三綱領』の理念の下、多様なステークホルダーの期待に応えるべく、事業を通じて、持続性のある経済価値・社会価値・環境価値を同時に実現していきます。

株主の皆様には、これまでも増して三菱商事をご支援いただきたくお願い申し上げます。

2016年6月  
代表取締役 社長

垣内 威彦



# 2015年度決算および 2016年度業績見通しのご説明

## 業績

2015年度の三菱商事グループの当期純利益(純損失)は、▲1,494億円の純損失となりました。非資源分野では、前年度に計上した減損損失振戻し益の反動などにより減益となり、また、資源分野では、市況の下落による持分利益の減少に加え、資源関連資産において減損損失等を計上したことなどにより、全体として減益となったものです。

2016年度も資源分野で引き続き厳しい事業環境が続きますが、非資源分野での安定的な利益を見込み、通期業績見通し2,500億円の達成を目指します。なお、資源分野への取り組みについては、向こう3カ年は投融資残高を一定に保ちつつ、資産の入替えによる質の向上を図ります。

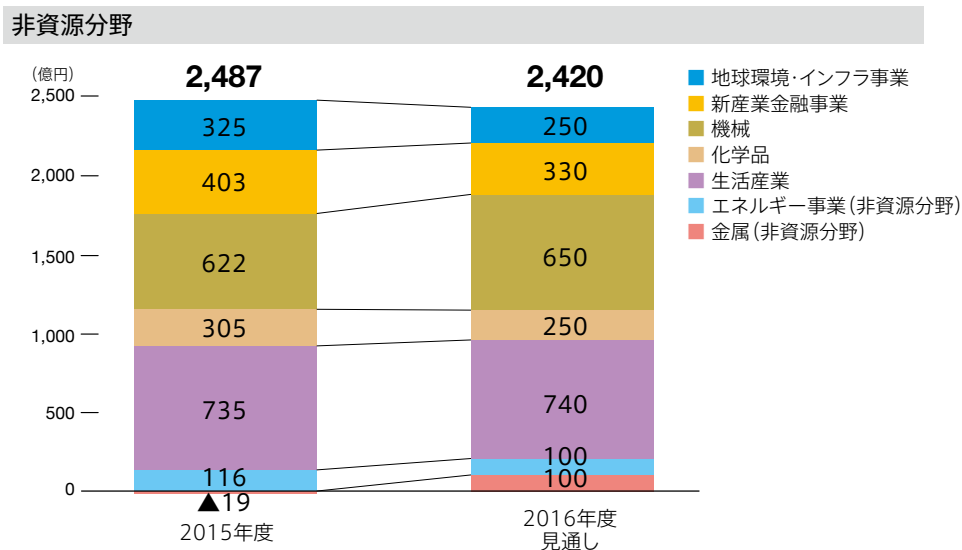
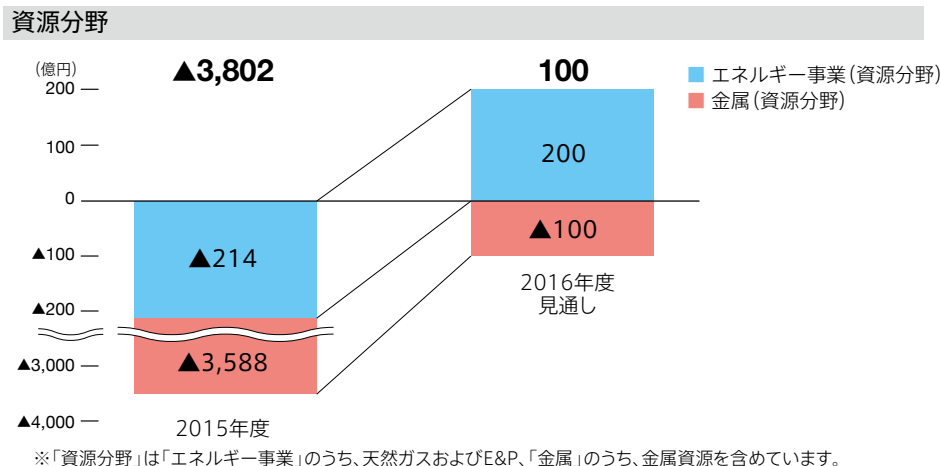
## 配当

2015年度の配当につきましては、2013年度からの3年間は事業環境の変化にかかわらず一定の配当を行うこととしており、1株当たり年間50円(中間配当25円を含む)とさせていただきます。

2016年度以降の配当につきましては、5月10日公表の『中期経営戦略2018』において、2016年度からの3カ年、株主還元は配当を基本とし、持続的な利益成長に合わせて増配していく累進配当を基本方針としており(詳細はP17をご参照ください)、2016年度の1株当たり年間配当は60円を予定しています。



## 資源・非資源分野別内訳 (2015年度業績/2016年度見通し)



※本グラフには、資源・非資源に分類されない数値(「その他、調整・消去」)は表示していません。  
 ※「地球環境・インフラ事業」には、地球環境・インフラ事業グループのうち、他の営業グループと同様の経営管理を行っているインフラ関連事業のみが含まれています。

## 業績ハイライト (国際会計基準)

### 2015年度業績

当期  
純損失

▲1,494 億円

配当金

年間配当  
50 円

### その他の指標・数字

	2014年度		2015年度
ネット有利子負債倍率	0.8倍	»	0.9倍
ネット有利子負債	4兆4,677億円	»	4兆3,155億円
資本	5兆5,705億円	»	4兆5,925億円
ROE	7.5%	»	▲2.9%
営業キャッシュ・フロー	7,983億円	»	7,001億円
投資キャッシュ・フロー	▲1,549億円	»	▲5,039億円
フリーキャッシュ・フロー	6,434億円	»	1,962億円

※1 株主通信における「当期純利益(純損失)」は、「非支配持分を除く、当社の所有者に帰属する当期純利益(純損失)」を表しています。

また、「資本」は、資本合計のうち、「非支配持分を除く、当社の所有者に帰属する持分」を表しています。

※2 ネット有利子負債は、金利を付けて返済しなければならない債務(銀行からの借入金や、社債、CP(コマーシャルペーパー)など)である有利子負債の総額から、現金および現金同等物などを除いたもの。ネット有利子負債倍率は、資本との比較により財務の健全性を測る指標。

※3 ROE(Return on Equity): 資本に対する当期純利益(純損失)の割合。資本利益率。

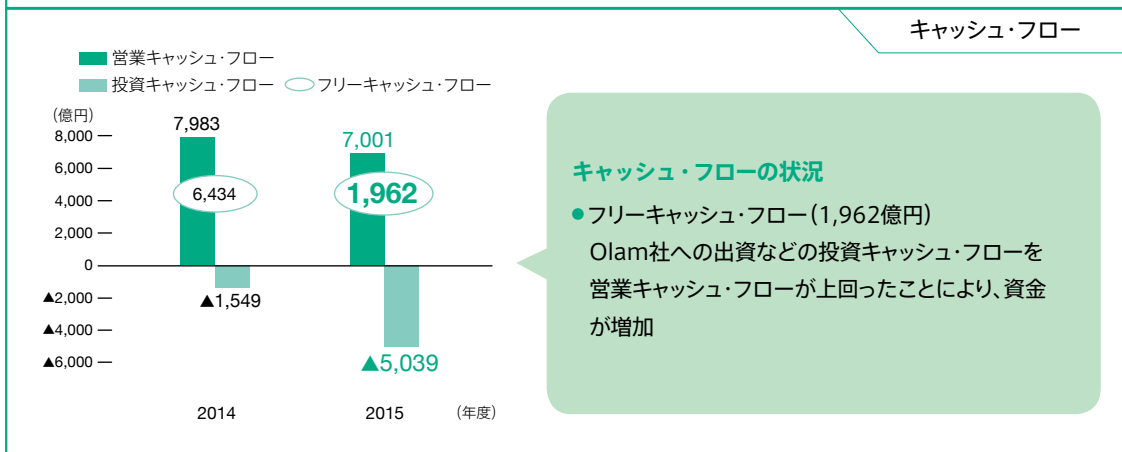
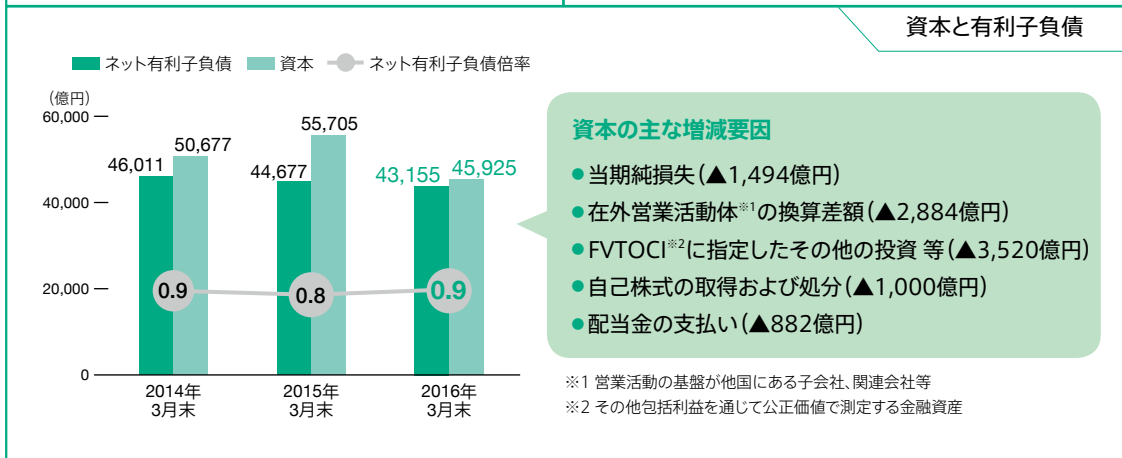
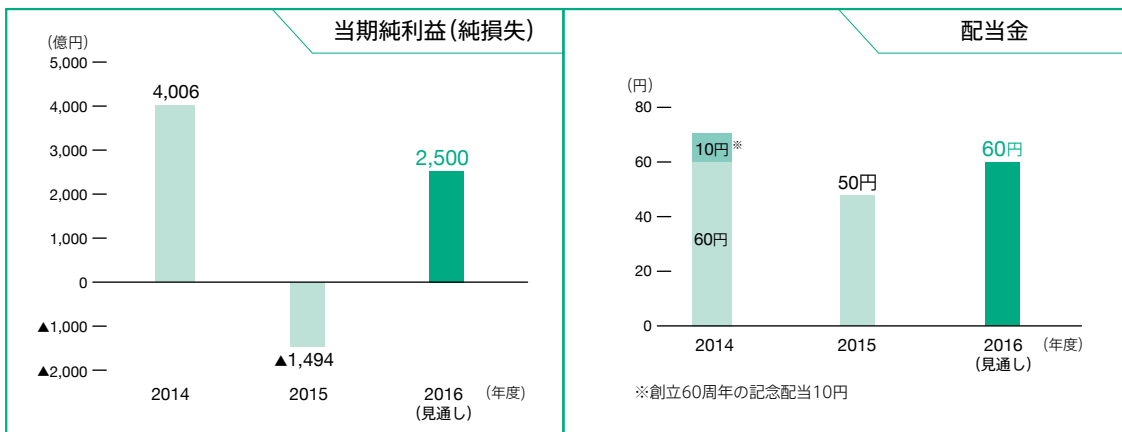
### 2016年度見通し

当期  
純利益

2,500 億円

配当金

年間配当  
60 円





Special Feature

三菱商事

---

# 中期経営戦略2018

～新たな事業経営モデルへの挑戦～

---

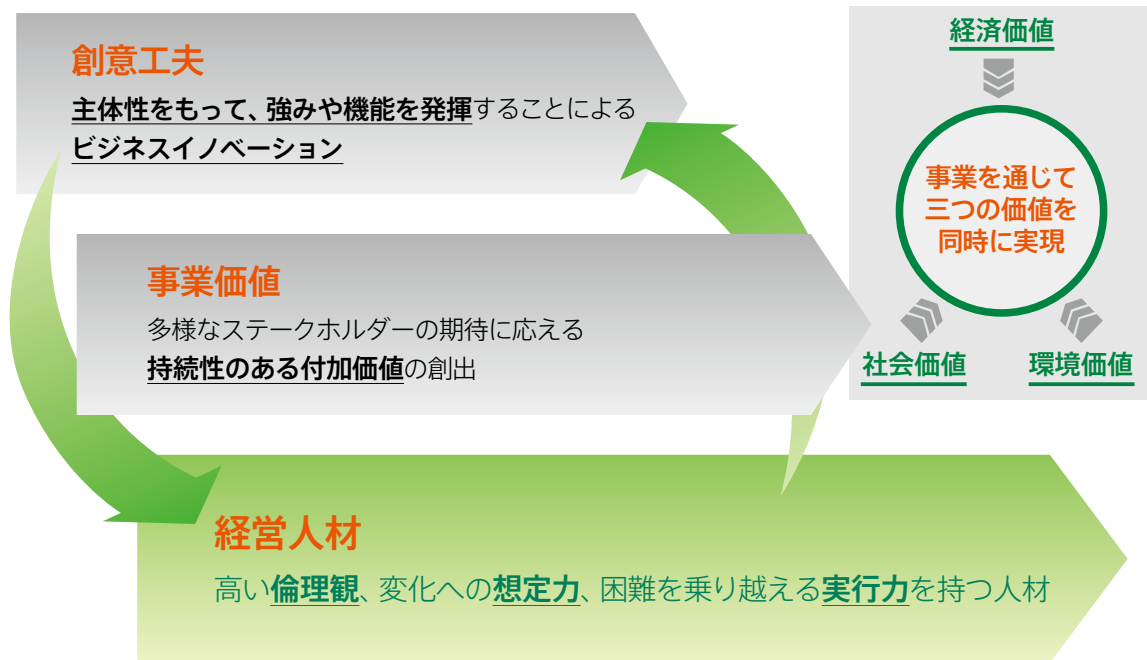
三菱商事は、2016年度から始まる3カ年の新しい経営の指針として、  
『中期経営戦略2018～新たな事業経営モデルへの挑戦～』を策定しました。  
その考え方、具体的な内容についてご紹介します。

## 『中期経営戦略 2018』 ～新たな事業経営モデルへの挑戦～

三菱商事は、地政学リスクの高まりや新興国の成長鈍化による商品市況の低迷といった環境変化に加え、第4次産業革命ともいえるべきAIやIoTなどの技術革新がもたらす産業の大きな変化を踏まえ、持続的に事業価値を創出するため、目指すべき企業像と向こう3カ年の経営方針をまとめました。

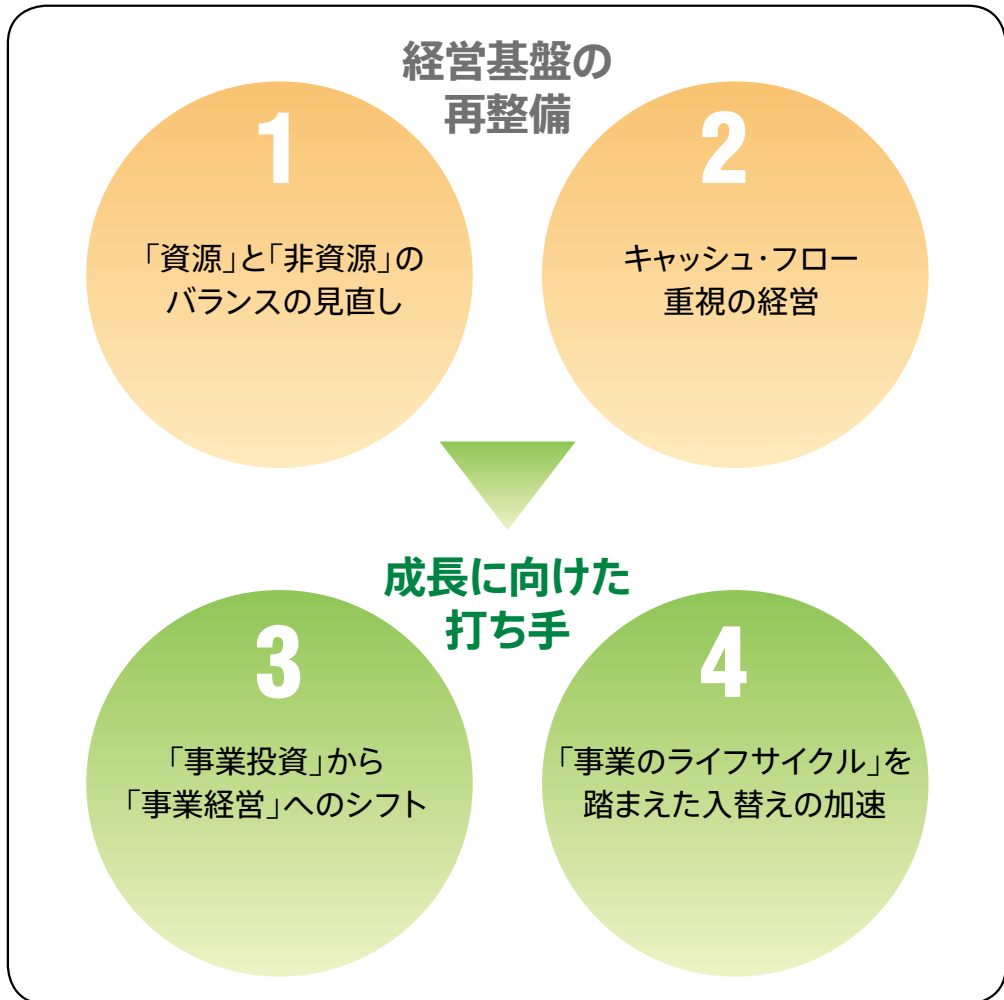
### 1 目指す企業像

三菱商事は、創意工夫により新たなビジネスモデルを構築し、自らの意思で社会に役立つ事業価値を追求していくことで、経営能力の高い人材が育つ会社となることを目指します。



## 2 向こう3カ年の経営の考え方

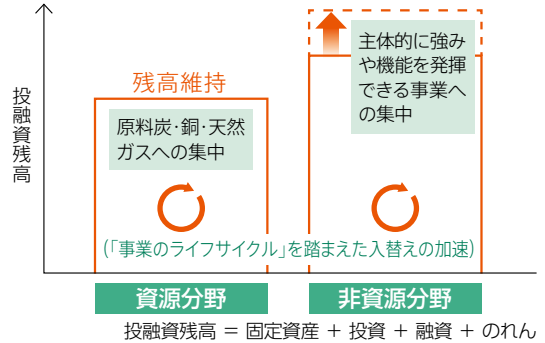
資源事業のボラティリティの高まりを踏まえ、資源価格に左右されない盤石の収益基盤を構築していくことが必要との認識の下、「資源と非資源のバランスの見直し」と「キャッシュ・フロー重視の経営」を進めて経営基盤を再整備すると同時に、成長に向けた打ち手として「事業投資から事業経営へのシフト」と「事業のライフサイクルを踏まえた入替えの加速」を実行します。



### 1 「資源」と「非資源」のバランスの見直し

資源分野については、原料炭・銅・天然ガスへ経営資源を集中し、投融資残高を一定に保ちつつ、資産の入替えによる質の向上を図ります。

非資源分野では、入替えを進めつつ三菱商事が主体的に強みや機能を発揮できる分野に投資を集中し、三菱商事のポートフォリオの構成を見直します。



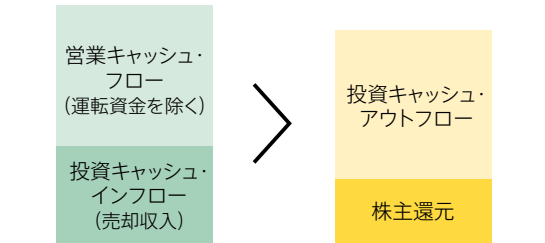
### 2 キャッシュ・フロー重視の経営

突発的な経済異変にも対応し、安定的に事業を継続できるよう、キャッシュ・フローを重視した経営を進め、有利子負債の水準をコントロールします。

具体的には、向こう3カ年は、キャッシュ創出額の範囲内で、投資と株主還元を実行します。

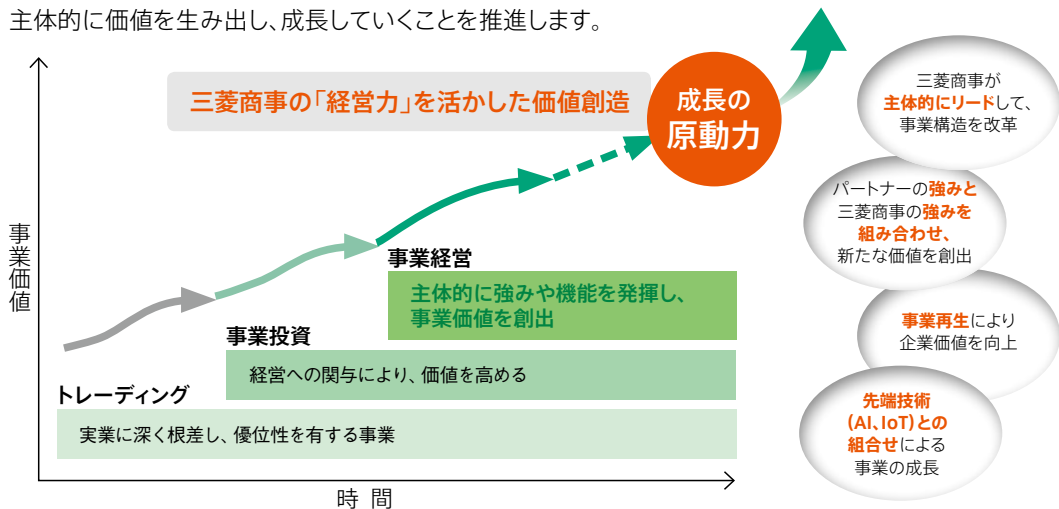
#### 『中期経営戦略2018』期間(3カ年合計)

キャッシュ創出額



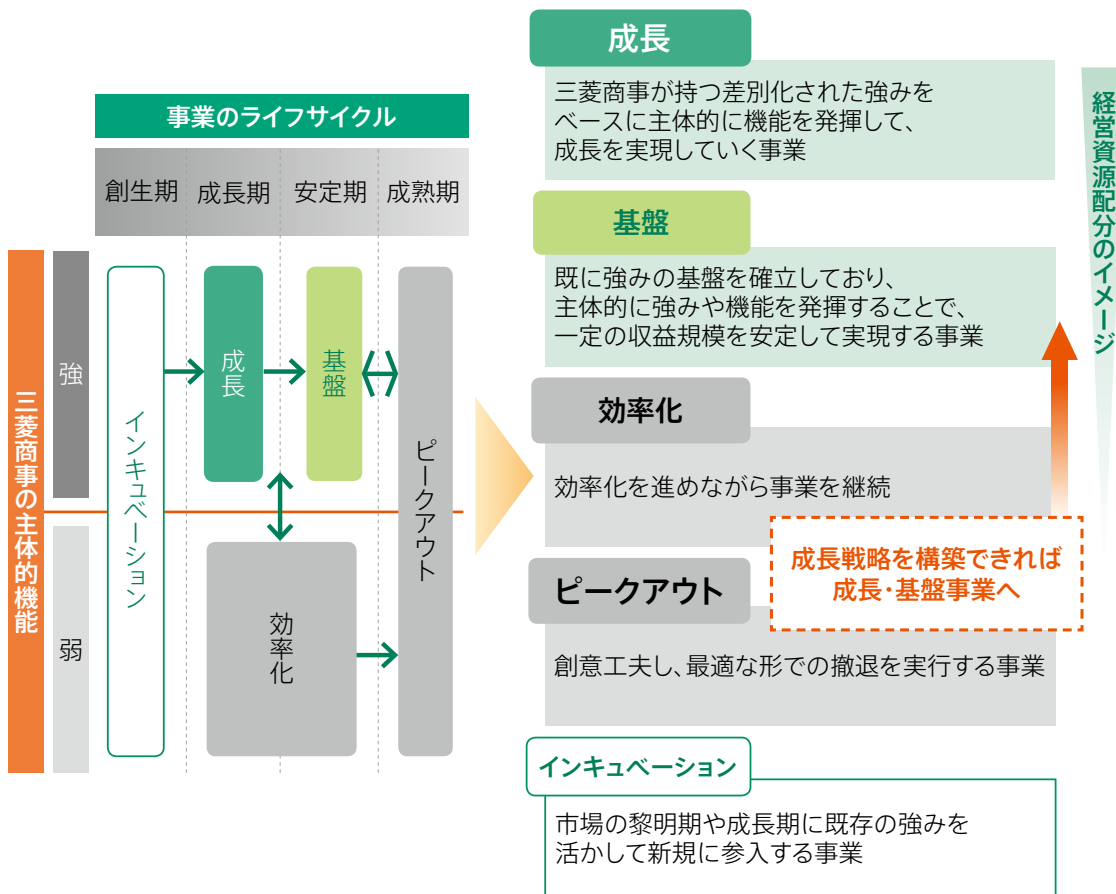
### 3 「事業投資」から「事業経営」へのシフト

これまでの成長の源泉を「投資」に求める発想を転換し、事業の中に入り、三菱商事の「経営力」をもって主体的に価値を生み出し、成長していくことを推進します。



## 4 「事業のライフサイクル」を踏まえた入替えの加速

事業には、環境の変化等によって、常にライフサイクルが存在していることを念頭に、主体的機能の発揮という観点からも事業の位置付けを見直し、入替えを促進します。

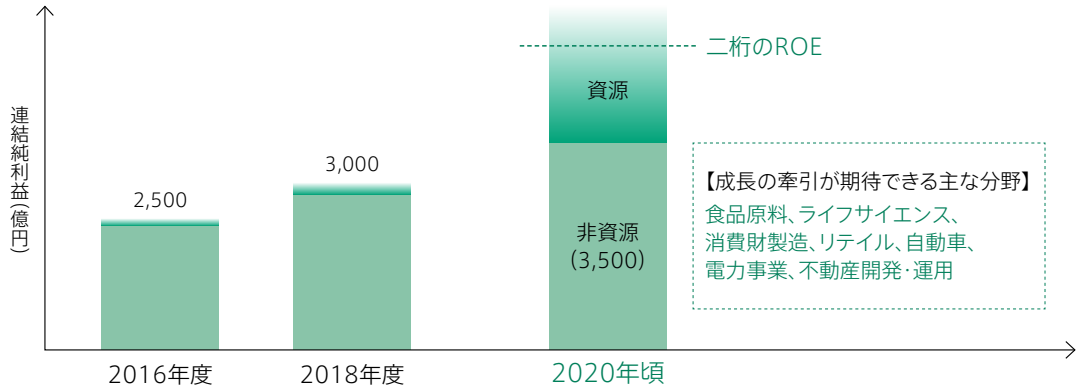




### 3 定量目標と株主還元

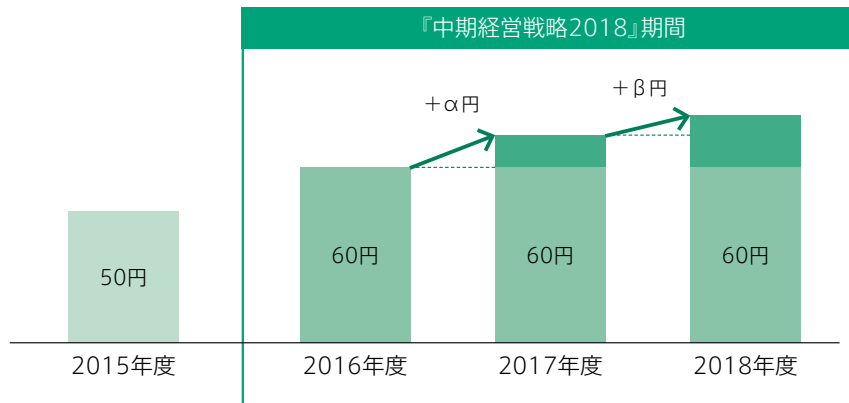
#### 1 中長期の定量目標

非資源分野のさらなる成長と、資源分野での積極的な資産入替により、2020年頃に二桁のROEの実現を目指します。



#### 2 株主還元

株主還元については「配当」を基本とし、持続的な利益成長に合わせて増配していく累進配当を基本方針とします。また、増配額は柔軟に決定します。



# BUSINESS HIGHLIGHT



2016年2月、英国で上水道事業等を展開する South Staffordshire Plc (SS社) の持分25% を米国の投資会社KKR社から取得することに合意しました。三菱商事は、SS社に人員を派遣し経営に参画するとともに、これまで水事業で培ってきた経験や事業投資先、パートナー企業との関係を活かし、SS社のサービス向上やコスト削減、事業拡大に貢献していきます。

SS社は、英国サウス・スタッフォードシャーとケンブリッジ地域で、約160万人に上水道に関わるサービスを提供するとともに、水道資産の運営・維持管理、設備投資や顧客管理など一貫した水道事業を展開。また、業界有数の優れたサービス・技術を、全英30以上の拠点を通じて、他の水事業会社にも提供しています。

三菱商事はこれまで、日本、オーストラリア、

フィリピン、チリ、アジア、中東、アフリカ諸国で  
▶ 水事業を推進してきました。今回のSS社への資本参画を通じて、水事業民営化の世界的な成功モデルとされる英国での実績とノウハウを積み上げ、上下水道事業への取り組みをさらに強化していきます。

#### ▶ 水事業における主な事業投資先

Metito Holdings Limited (2014年～)

中東、アフリカ、東南アジア、中国の各地域

グローバルな総合水事業会社として水処理施設の設計から投資・運営までを手がける

水ing(株) (2010年～) 日本・海外

水に関する技術・製品開発、設計・建設から維持管理・運営等を国内外で幅広く展開

TRILITY Pty Ltd (2010年～) オーストラリア

上下水道施設、海水淡水化プラント、再生水プラントに関し、自治体・産業・資源向けに総合的なソリューションを提供

MANILA WATER COMPANY, INC. (1997年～) フィリピン

首都マニラの東地域において取水から上下水道処理、料金請求までを一貫して行う

# 丸の内キャピタル2号ファンドを設立

## 新産業金融事業グループ

2016年2月、三菱東京UFJ銀行(BTMU)、丸の内キャピタルとともに、日本企業を主な対象としてバイアウト投資※1を行う「丸の内キャピタル2号ファンド」を設立しました。設立当初は三菱商事とBTMUがそれぞれ250億円出資し、外部投資家の資金を募りながら、最大1,000億円規模に拡大することを目指します。

ファンドを運営する丸の内キャピタルは、スポンサーの信用力や産業界との幅広い接点を活用し、国内企業を資本面・経営面からサポートします。▶1号ファンドではジョイフル本田や成城石井への投資案件を手がけるなど、着実に実績を積み上げました。

日本では、多くのオーナー企業が後継者不足などの経営課題を抱え、バイアウト投資のニーズが高まると予想されています。本ファンドは、こうした事業継承案件を対象とするほか、ROE

重視経営を背景に案件数、金額ともに増加傾向にあるカーブアウト※2案件にも精力的に取り組み、投資先企業の価値向上や産業活性化を通じて日本経済の発展に貢献していきます。

### ▶丸の内キャピタル1号ファンドの投資実績

	事業内容	支援内容
タカラトミー	玩具・カードゲームなどの企画、製造および販売	連結経営およびコスト削減・業務効率化による収益力の改善、グローバル展開の支援
ジョイフル本田	関東地方で大規模ホームセンター「ジョイフル本田」を展開	将来の株式公開に向けたコーポレート・ガバナンス強化、企業価値の向上を支援
山本製作所	自動車部品製造	海外展開の強化、将来の株式公開に向けたコーポレート・ガバナンス強化を支援
成城石井	食料品専門スーパーマーケット事業および卸売	丸の内キャピタルの有する事業ネットワーク・ノウハウを活用し、企業価値の向上を支援

※1 潜在的な事業価値を持つ企業の株式の過半数を取得し、投資先の経営陣を支援しながら中長期的な企業価値向上を図り、株式を売却して投資利益を実現する手法。

※2 主に大企業から一部の事業部門を切り出し、独立させた上で価値向上を図る手法。



■丸の内キャピタルの役職員（前列右から3人目が朝倉陽保社長）

# インドネシアの紙おむつ事業に参入

生活産業グループ



■紙おむつの現地工場とEIMI社主力商品、パンツタイプの紙おむつ

2015年12月、大王製紙ブランドのベビー用紙おむつの製造・販売事業をインドネシアにおいて行う、PT. Elleair International Manufacturing Indonesia (EIMI社)およびPT. Elleair International Trading Indonesia (EITI社)にそれぞれ40%出資しました。

インドネシアは年間450万人以上の出生人口があり、ベビー用紙おむつの継続した需要増加が見込まれています。流通・小売大手の▶アルファグループと資本・業務提携している三菱商事は、競争力のある製造・開発力を持つ大王製紙との取り組みにより、高品質な製品を安定的に供給することで、インドネシアの消費者の生活に貢献していきます。

また将来的には、大人用紙おむつや衛生用品の製造・販売、他国への輸出を視野に入れ、事業の拡充に取り組みます。

## ▶ アルファグループ

アルファグループはインドネシア最大の小売グループの1社で、ミニマートの「アルファマート」のほか、スーパーマーケットの「アルファミディ」や「ローソン」ブランドのコンビニなど、インドネシア国内に1万2千を超える店舗を保有しています。

三菱商事は2011年にアルファグループと資本・業務提携し、食品・消費財製造や流通分野で複数の事業を展開しています。



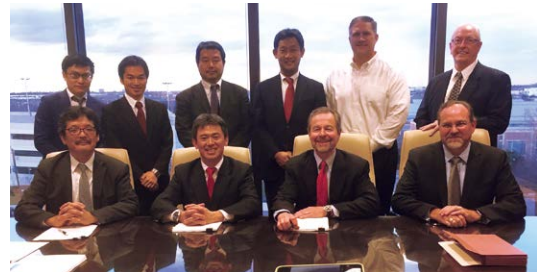
■アルファマート

## 北米ガス事業のバリューチェーン強化へ

### エネルギー事業グループ

2016年1月、北米でガスおよび原油のマーケティング事業を展開するシーマ・エナジー（CIMA社）を完全子会社化しました。CIMA社は、米国ヒューストンを拠点に、北米市場でおよそ1,500社に上る顧客基盤を有しています。

今回CIMA社を完全子会社化したことで、三菱商事グループが推進するLNG輸出プロジェクト「キャメロンLNG」や「LNGカナダ」に向けた原料ガスの調達支援や輸送手配等が強化されます。また、カナダのシェールガス上流開発事業で生産されるガスの販売支援など、北米における天然ガス事業オペレーションの中核をCIMA



■株式譲渡契約書署名の様子

社が担うことで、天然ガス事業のバリューチェーンのさらなる強化を図っていきます。

CIMA社の機能を最大限に活用することで、北米産LNGの安定的な輸出を実現し、日本をはじめ各国に向けたエネルギーのさらなる安定供給に貢献していきます。

## ローソンと家庭向け電力小売事業に参入

### 地球環境・インフラ事業グループ

2016年4月から始まった電力小売の完全自由化に伴い、ローソンと共同事業会社MCリテールエナジーを設立し、家庭向け電力小売事業に参入しました。MCリテールエナジーは、電力事業における三菱商事のノウハウとローソンのネットワークを活用し、関東圏の一般家庭や小規模事業所に電力サービスを提供します。

MCリテールエナジーが手がける家庭向け

電力「まちエネ」サービスは、『あんしん! うれしい! わかりやすい!』をコンセプトに、電力サービスを提供します。料金プランは、「きほんプラン」のみのシンプルな設定で、Pontaポイントやローソンで使えるクーポンなどの特典も用意されています。地域のインフラとして、皆様に「あんしん」してご利用いただける電力販売を推進していきます。

#### ■電気代の例

戸建て  
5人暮らしの場合  
現在の電気代約20,000円/月

年間で約14,900円おトク!

まちエネ



戸建て  
3人暮らしの場合  
現在の電気代約12,000円/月

年間で約5,300円おトク!

# 環境・CSRへの取り組み

三菱商事では、企業理念である『三綱領』を全ての企業活動の基礎と位置付け、地球環境や地域社会に配慮した取り組みを推進するとともに、社会に役立つ事業価値を追求し、企業価値のさらなる向上に努めています。今号では、投融資案件における環境・社会面のリスクマネジメント体制と、東日本大震災復興支援の取り組みを紹介します。

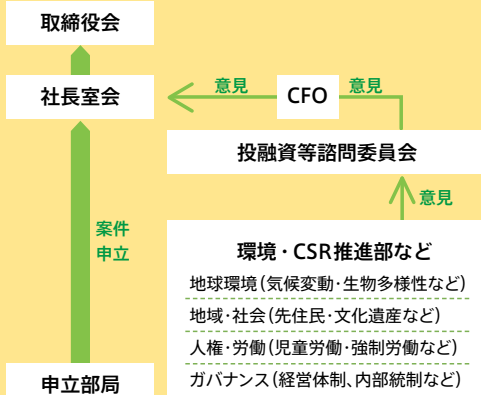
## ビジネスにおける環境・社会面への配慮

### 環境・社会面からのリスクマネジメント体制

三菱商事では、投融資案件を検討・推進する際、経済性のみならず、環境や社会への影響を含めて、総合的に審査を行っています。具体的には、コーポレートスタッフ部門の一つとして環境・CSR推進部が各投融資案件について環境・社会面から審査を行い、最高財務責任者(CFO)を委員長とする「投融資等諮問委員会」に対して意見を述べています。審査にあたっては、環境・社会・健康影響評価(ESHIA)報告書のレビューや国際金融公社(IFC)のガイドライン、国際協力銀行(IBIC)の「環境社会配慮確認のための国際協力銀行ガイドライン」などを参照しています。

また、環境・社会面のリスクマネジメントの一つとして、サプライチェーンマネジメントを実施しています(詳細は次ページをご参照ください)。

#### ● 投融資案件の審査における環境・社会面からのリスクマネジメント体制



## サプライチェーンマネジメント

「安全で衛生的な労働環境が提供されているか」「適切な賃金が支払われているか」——。世界中で多様な商品・サービスを取り扱う三菱商事にとって、サプライチェーンが抱える課題を適切に把握し、対応することは重要課題の一つです。三菱商事は、人権・労働問題・地球環境等への取り組みの方針となる「サプライチェーンにおけるCSR行動ガイドライン」を制定し、CSRに対する三菱商事の基本的な考え方をサプライヤー各社と共有するとともに、アンケートや現地視察による調査を通して、現場の状況把握を行い、必要に応じて指導・改善支援を実施しています。現地調査は、製造工場視察をはじめ、経営陣や従業員へのインタビュー、近隣住民へのヒアリングなど多岐にわたります。



●スリランカの紅茶サプライヤーKelani Valley社への視察



●農園で作業中の方にインタビューをする三菱商事社員

農園、労働者の住居、工場などを視察し、人権侵害の有無や安全で衛生的な労働環境が確保されているか等を確認しました。

現地視察も含めた、サプライヤー各社の環境・社会面に配慮したCSRの取り組みを継続的にモニタリングすることが、三菱商事の持続的な成長につながると考えています。

### 外部からの評価

MEMBER OF  
**Dow Jones  
Sustainability Indices**  
In Collaboration with RobecoSAM

三菱商事は、ビジネスおよび社会貢献活動において地球環境や地域社会に配慮し、またこれらに付加価値を提供する取り組みを推進していますが、これらの取り組みを外部ステークホルダーに対して積極的に発信することも重要と考えています。

三菱商事は現在、DJSI World(ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・ワールド・インデックス)の構成銘柄に指定されています。DJSI Worldとは、毎年、経済・環境・社会の3つの側面から世界各国の企業の持続可能性を評価し、各業界セクター内で上位10%の企業を組み込む株指標です。



2015年度、三菱商事はCarbon Disclosure Project(CDP)において、以下の評価を受けました。CDPは、企業の気候変動に関する情報開示の分野で、世界の投資家から最も信頼されている評価・格付けの一つです。

- CDP気候変動(企業の気候変動問題に対する対応状況を評価)  
情報開示スコアで99点(100点満点)、パフォーマンススコアでB評価
- CDPウォーター(企業の水リスク管理に関する取り組みを評価)  
「B-マネジメント」の評価(「資本財・サービス」セクターの中で第1位)

### 日経環境経営度調査

三菱商事は、日経環境経営度調査で非製造業商社部門で1位に選ばれました。日経環境経営度調査は、日本経済新聞社が、企業の環境対策と経営を両立させる取り組みを評価する調査です。

# 東日本大震災復興支援

## スパークリングワイン・シードルが初出荷

2016年3月4日、福島県郡山市の「ふくしま逢瀬ワイナリー」から、福島産スパークリングワイン、シードルが初出荷されました。公益財団法人三菱商事復興支援財団が郡山市と連携協定を結び推進する、果実の生産から加工・販売までを一貫して行う新たな事業モデルの構築を目指す「果樹農業6次産業化プロジェクト」の記念すべき第一歩です。

初出荷されたのは、福島県のぶどうから造ったスパークリングワイン500本、同じく福島県産

のりんごから造ったシードル5,000本。福島県のホテル・旅館・レストラン・観光施設・お土産店などで販売する予定ですが、将来的には東北地区や首都圏のレストラン、小売店などでの取り扱ひも目指しています。

三菱商事復興支援財団では、「果樹農業6次産業化プロジェクト」の推進を通じて、地域経済の活性化と福島県をはじめとする被災地の復興を支援していきます。

“ふくしまの未来”を想う  
生産者の情熱が込められた  
ワインです



### ●スパークリングワイン 『MUSCAT BAILEY A ROSE 2015』

大きな寒暖差により旨味の詰まった農作物を生み出す会津盆地で収穫したぶどうを100%使用。心地よい泡にいちごのようなフレッシュで甘い香りが口いっぱいに広がります。



### ●シードル『CIDLE 2015』

開花から収穫までの期間が長く、じっくり完熟した福島県産「ふじ」を100%使用。芳醇な甘味と酸味のバランスに優れ、フレッシュな香りと果実味が感じられます。

「りんごの味には自信があります。このプロジェクトを通じて、福島産の農産物のおいしさと安全性をアピールしたい」

「加工から販売までの仕組みを財団が整備してくれたことで、農家の皆さんのモチベーションが高まり、具体的な課題・目標が明確になりました」



郡山市園芸畜産振興課の箭内 勝則課長 補佐 (左) とカ丸果樹園のカ丸 哲さん



ワイナリー醸造責任者の佐々木 宏さん

「醸造酒は原料の味で決まります。福島産果実の自然なおいしさを引き出し、ここで造るワインが福島産の農業復興の一助になればうれしいです」



## 産業復興・雇用創出支援を継続的に推進

三菱商事は、三菱商事復興支援財団を通じて、地元金融機関と協働し、「産業復興・雇用創出支援」を展開しています。2015年度は6件の出資・融資を決定し、2012年度からの支援案件は合計で50件となりました。

### ●2015年度 新規支援案件

#### 岩手県

- 水産加工販売／洋野町 ひろの屋



#### セッションナブル

東北産の杉を原料に製造するギター工房。ギター生産と販売を通じて女川町の雇用創出、産業復興、観光の発展に寄与するほか、東北の音楽文化の発展にも貢献することを目指しています。

#### 宮城県

- ギター製造販売／女川町 セッションナブル
- 石けん製造販売／女川町 アイローカル
- 食品製造／石巻市 大地フーズ

#### 福島県

- 宿泊施設／南相馬市 いちばん星
- 服飾品加工販売等／南相馬市 小高ワーカーズベース

#### 小高ワーカーズベース

南相馬市小高区は、震災に伴う原発事故により全域が避難区域に指定され、住民の大半が今も避難生活を送っています。小高区に帰還する、または帰還を検討している住民の暮らしを支えるビジネスの創出を目指し、シェアオフィス、仮設スーパー、ガラス細工製造販売を運営しています。



#### 熊本地震に対する支援について

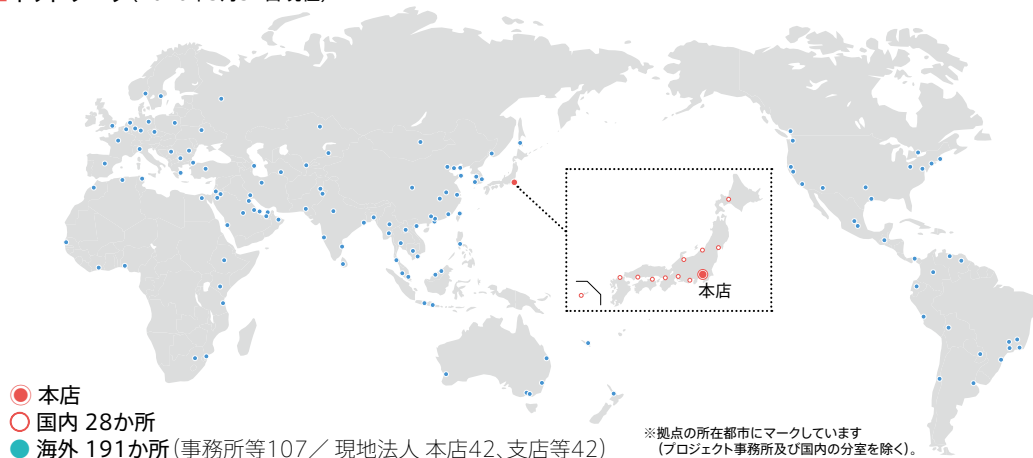
平成28年4月に熊本県を中心に発生した大規模地震による被害に対し、被災地支援として1,000万円の寄附を実施しました。

# 会社情報

## ■コーポレートデータ (2016年3月31日現在)

社名 三菱商事株式会社  
 創立 1954年7月1日 (設立1950年4月1日)  
 資本金 204,446,667,326円  
 本店登記地 三菱商事ビルディング 東京都千代田区丸の内二丁目3番1号  
 従業員数 連結68,247名、単体 5,379名 ※2016年3月31日時点の就業人員数を記載しています。  
 連結対象会社数 1,242社

## ■ネットワーク(2016年3月31日現在)



## ■取締役及び監査役 (2016年6月24日現在)

取締役会長 小林 健	取締役(社外) 加藤 良三	常任監査役(常勤) 鍋島 英幸
*取締役社長 垣内 威彦	取締役(社外) 今野 秀洋	監査役(常勤) 木崎 博
*取締役副社長執行役員 田邊 栄一	取締役(社外) 西山 昭彦 (一橋大学特任教授)	監査役(社外) 國廣 正 (弁護士)
*取締役常務執行役員 森 和之	取締役(社外) 大宮 英明 (三菱重工業(株)取締役会長)	監査役(社外) 西川 郁生 (慶應義塾大学商学部教授)
*取締役常務執行役員 廣田 康人	取締役(社外) 岡 俊子	監査役(社外) 高山 靖子
*取締役常務執行役員 増 一行		

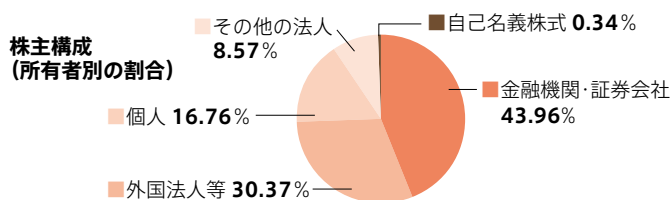
※\*は代表取締役を示しています。

※すべての社外取締役及び社外監査役を、(株)東京証券取引所など、国内の金融商品取引所が定める独立役員として指定しています。

## ■株式等の状況 (2016年3月31日現在)

### 株式数及び株主数

発行可能株式総数 25億株  
 発行済株式総数 1,590,076,851株  
 株主数 272,565名



## ■大株主の状況 (2016年3月31日現在)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	131,319	8.28
東京海上日動火災保険株式会社	74,534	4.70
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	69,200	4.36
明治安田生命保険相互会社	64,846	4.09
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(三菱重工業株式会社口・退職給付信託口)	32,276	2.03
いちごトラスト・ピーティーイー・リミテッド	29,483	1.86
野村信託銀行株式会社(退職給付信託・三菱UFJ信託銀行口)	22,088	1.39
THE BANK OF NEW YORK MELLON SA / NV 10	20,258	1.27
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	20,149	1.27
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口7)	18,956	1.19

※持株比率は、三菱商事が保有している自己株式5,441,606株を除いて算出し、小数点第3位以下を切捨てて記載しています。(千株未満切捨て)

証券コード	8058	株主名簿管理人・特別口座管理機関
上場証券取引所	東京、名古屋	三菱UFJ信託銀行株式会社
単元株式数	100株	(連絡先)〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
事業年度	4月1日から翌年3月31日まで	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
定時株主総会	毎年6月開催	0120-232-711 (通話料無料)
期末配当金支払株主確定日	3月31日	※住所変更等の各種手続きについては、口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。
中間配当金支払株主確定日	9月30日	※支払開始日から満3年を経過していない未受領の配当金、及び特別口座に記録された株式に関するお手続きについては、三菱UFJ信託銀行株式会社にお問い合わせください。
公告方法	電子公告	
ただし、事故その他やむを得ない事由により、電子公告ができない場合は、官報に掲載します。		
〈公告掲載アドレス〉 <a href="http://www.mitsubishicorp.com">http://www.mitsubishicorp.com</a>		

## 植樹News

2011年度よりスタートした株主の皆様とともに推進する地球環境の保全・改善活動「株主の皆様と共に育む豊かな森づくり」。

「株主総会招集ご通知」や「株主通信」など、株主の皆様へ紙で郵送している資料をEメールでお送りすることにご賛同いただけますと、株主お一人様につき半期に1本、マレーシアで植樹を行います。2015年度下半期は、2万535名の皆様にご協力いただき、これまでに累計23万8,720本の植樹が実現しました。

※詳しくはHPをご覧ください。



東洋文庫  
ミュージアム  
展覧会

『もっと知ろうよ! 儒教』展

開催中～2016年8月7日(日)



中国最古の詩集にして  
儒教の重要な経典  
国宝『毛詩』  
7-8世紀(唐時代)書写



現存最古の「論語」解説書  
国指定重要文化財『論語集解』  
1268年(鎌倉時代)書写

**儒**教の教えは今からおよそ2500年前、孔子とその弟子たちによって中国で説かれ始め、東アジア全域に広がりました。本展では「儒教とは何か?」という素朴な疑問に、柔らかく中身の詰まった内容でお答えいたします。

名品の数々を通して、私たちの習慣や価値観に大きく影響を与えている「儒教」の世界に触れましょう。「あれも、これも、儒教と関わりがあったのか!」という驚きと発見の楽しさを、きっと見いだしていただけることでしょう。いざ、儒教入門!

『本のなかの江戸美術』展

2016年8月17日(水)～12月25日(日)



極彩色の豪華な絵巻でつづる、  
おなじみの物語  
『浦島太郎物語』  
17世紀(江戸時代初期)

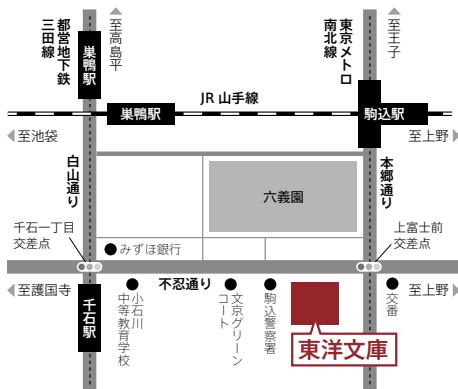


江戸の名所を描いた  
浮世絵といえどコレ!  
『名所江戸百景』歌川広重  
1856-59年

**東**洋文庫の創設者である岩崎久彌(三菱第3代社長)旧蔵のコレクション「岩崎文庫」は、江戸時代に制作された絵巻・絵本・浮世絵・春画などの美しい絵画資料が豊富なことで知られています。本展では、そのなかから厳選された逸品を一挙に公開するとともに、作品を読み解くことで見えてくる日本文化のさまざまな表情をご紹介します。東洋文庫だからこそ実現できる「眼の喜び」と「知の楽しみ」を併せてご堪能ください。

※春画の展示があるため、浮世絵展示室の入場は18歳以上の方に限らせていただきます。

東洋文庫ミュージアムのご案内



住所 〒113-0021 東京都文京区本駒込2-28-21

TEL 03-3942-0280

入場料 一般 900円 65歳以上 800円 大学生 700円  
中・高校生 600円 小学生 290円 障がい者(+付添1名) 350円  
※2016年8月17日～12月25日まで、中・高校生200円、小学生無料

アクセス 駒込駅(JR山手線南口、東京メトロ南北線2番出口)から徒歩8分  
千石駅(都営地下鉄三田線A4番出口)から徒歩7分

開館時間 10:00～19:00 ※入館は18:30まで

休館日 毎週火曜日(ただし、火曜日が祝日の場合は翌平日)  
展示替え期間(2016年8月8日～8月16日、12月26日～2017年1月6日)

URL [www.toyo-bunko.or.jp/museum/](http://www.toyo-bunko.or.jp/museum/)

併設のレストラン「オリエント・カフェ」も、ぜひご利用ください。

ランチタイム 11:30～14:30 / デザートタイム 11:30～17:30 /  
【営業時間】 ディナータイム 17:30～21:30、定休日 火曜日(祝日の場合は翌平日)